

**出雲14位**  
**全日本18位**

# 学生二大駅伝で粘りの走り



出雲大社前の参道を走る選手たち。大勢の観客が応援に駆け付けた

今年から区間距離が変更された全日本大学駅伝には二年連続の出場となったが、川瀬選手は調子が上がらず、急ぎよ欠場。エース不在の中、八名が粘

本学駅伝競走部が十月八日(月祝)に行われた第三十回出雲全日本大学選抜駅伝競走に初出場し、十四位と健闘。二年連続の伊勢路となった十一月四日(日)の秩父宮杯第五十回全日本大学駅伝対校選手権大会では十八位でゴールテープを切った。目標としていた順位にはわずかに届かなかったものの、両大会とも来年の東海地区出場枠「二」を確保し、次へと繋げた。

## 一年の東海地区出場枠「二」を確保

エントリーした六人の選手全員が「ほぼ完璧な仕上がりに」臨んだ初めての出雲駅伝。一区の川瀬翔矢選手(現日二)がトップとのタイム差五五秒の力走で弾みをつけると、四区の桑山楓矢選手(同)が区間十三位、五区の山下慧士選手(国史三)が区間十二位と駅伝初登場とは思えない堂々の走りを見せ、現行コースでの東海地区勢では最高順位・最高タイムとなる十四位(二時間一八分五五秒)でゴールした。

第50回 全日本大学駅伝 (8区106.8km)

順位	大学名	記録
1	青山学院大学	5:13:11
2	東海大学	5:15:31
3	東洋大学	5:15:57
4	駒澤大学	5:17:29
5	帝京大学	5:18:34
6	國學院大学	5:19:50
7	法政大学	5:20:21
8	城西大学	5:20:29
9	明治大学	5:20:37
10	神奈川大学	5:21:06
11	日本大学	5:21:08
12	日本体育大学	5:21:39
13	順天堂大学	5:22:14
14	中央学院大学	5:22:18
15	早稲田大学	5:23:21
16	立命館大学	5:24:46
17	京都産業大学	5:32:23
18	皇學館大学	5:35:06
19	愛知工業大学	5:38:14
20	広島経済大学	5:40:14
21	第一工業大学	5:40:21
22	大阪経済大学	5:41:44
23	札幌学院大学	5:44:34
24	新潟医療福祉大学	5:46:46
25	東北大学	5:49:34
日本学連選抜		5:26:50
東海学連選抜		5:36:34

第30回 出雲駅伝 (6区45.1km)

順位	大学名	記録
1	青山学院大学	2:11:58
2	東洋大学	2:12:10
3	東海大学	2:13:31
4	拓殖大学	2:14:16
5	帝京大学	2:15:02
6	中央学院大学	2:15:04
7	立命館大学	2:15:07
8	城西大学	2:15:11
9	日本体育大学	2:15:31
10	早稲田大学	2:15:34
11	アイビーリーグ選抜	2:16:01
12	法政大学	2:16:14
13	京都産業大学	2:17:47
14	皇學館大学	2:18:55
15	日本文理大学	2:21:25
16	札幌学院大学	2:21:33
17	大阪経済大学	2:22:08
18	北信越学連選抜	2:22:17
19	札幌国際大学	2:22:30
20	広島経済大学	2:22:34
21	東北学連選抜	2:24:28

「全日本前の最終段階で、攻めの意識が欠けてしまった。それがレースに表れたように思う」と日比勝俊監督。「ただ、自分たちの良さ、成長を実感できる面も多々あった。十二

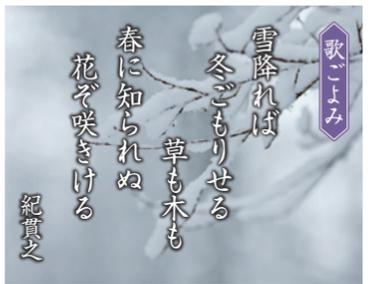
月の東海学生駅伝二連覇に向けて、今回の反省と自信を生かしたい」と話した。



地元市民や学生の声に力を得て、ゴールの伊勢神宮をめざし懸命に走る平野選手

# 皇學館 学園報

第77号  
平成30年12月



## 注目記事

- 2面 田中卓元学長のご葬儀しめやかに
- 3面 地域連携
- 4面 グローバル
- 4面 ヨーク大学夏期語学研修 体験者レポート
- 5面 特別企画
- 5面 倉田山移転100年
- 6面 高中トピックス
- ほか 「家族に感謝する日」の行事
- 7面 学園祭レポート
- 7面 平成最後の学園祭が閉幕
- 8面 アクティブスチューデント
- 8面 山城美菜さんら日本チームがキンポール スポーツアジアカップで優勝
- ほか 岡村真衣さんがミス伊勢志摩グランプリに

発行・編集 学校法人皇學館 企画部  
TEL 0596-22-6496・8600

大学  
大学院 | 文学部 教育学部  
専攻科 | 現代日本社会学部  
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704  
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校  
三重県伊勢市楠部町138  
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)  
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

## 柔道部が全日本で過去最高の成績

### 第五位が一名、第九位が四名

九月二十九日、三十日に日本武道館にて開催された全日本学生柔道体重別選手権大会に本学柔道部から男子十名、女子三名が出場。第五位(ベスト8)が一名、第九位(ベスト16)が四名と、同部史上最高の成績を収めた。また、十月二十日、二十一日



着実に力をつけている柔道部

にベイコム尼崎総合体育館で行われた全日本学生柔道体重別団体優勝大会では法政大学を三〇、京都産業大学を五〇で下し、第九位と健闘。さらに十一月三日、四日に開かれた講道館杯に初出場した瀬古翔洋さん(教育4)がベスト16に輝く(八面参照)など個人・団体ともに存在感を増している。佐藤武尊部長は「大会直前に大怪我を負いながらも執念で畳に立った者、屈指の実力者相手に接戦に持ち込んだ者、全身全霊でサポートに徹した者など、全員が一枚岩となり戦った結果、さらなる高みをめざしてい

全日本学生柔道体重別選手権大会 9/29-30

第5位 (ベスト8)	60kg級	瀬古翔洋(教育4)
第9位 (ベスト16)	66kg級	勝野肇章(コミュ4)
	81kg級	太郎丸裕平(教育4)
	100kg級	牛丸了英(国文4)
	63kg級	浅井萌加(教育4)

全日本学生柔道団体優勝大会 10/20-21

第9位 (ベスト16)	男子団体
-------------	------

## ご挨拶

平素より本学園の教育・研究活動に対し、格別のご高配を賜り、謹んで厚く御礼申し上げます。またこの度は、本学強化指定クラブ(駅伝競走部・柔道部)全国大会出場に際しまして、多くの皆様から物心両面にわたるご支援を賜りましたこと、重ねて御礼申し上げます。全国を舞台にした今回の経験を礎に、これからも一層の精進を重ねて参ります。今後とも相変わらぬご指導とご支援を賜ります様、お願い申し上げます。

学校法人皇學館 理事長 佐古 一 冽

## 強化指定クラブ(駅伝競走部・柔道部) 全国大会出場協賛金納入状況報告 H30.11.30現在

区分	件数	協賛金(円)
宗教界	54	2,453,000
企業	32	1,723,000
館友	139	1,112,000
尊の会保護者	1	20,000
一般	14	175,000
本法人関係	6	646,000
合計	246	6,129,000

今秋の国会に出入国管理及び難民認定法の改正案が提出された。農業など十四の業種に就労外国人を受け入れるというものの、これについてCLL活動「新聞カフェ」で学生諸君が議論したという記事が中日新聞に掲載された。この日の出席者のうち反対が三人、賛成が一人だったという。慎重派の反対意見に対して、「コンビニの店員は外国人が当たり前で違和感がない」という賛成の意見が挙げば、外国人の人手に手伝ってもらわなければ世の中が成り立たないことを指摘して興味深い。看護師や介護士はすでに高度人材として外国人候補者を受け入れていく。候補者は出身国の看護大学を卒業したエリートだ。▼本学も関係機関との協定によるベトナム人看護師候補者の日本語教育を実施。三名が難関の国家試験に合格し、看護師として活躍している。▼本年度から現代日本社会学部でも留学生の受け入れが始まった。将来、研究高度人材としての活躍も期待される。▼日本語が話せることと日本語が教えられることは同じではない。日本人の学生諸君にも高い意識をもって日本語を学んでもらいたい。



# 田中卓元学長のご葬儀しめやかに

十一月二十四日午前二時十分、慢性腎不全のため九十四歳で逝去された本学学事顧問で元学長である田中卓元先生のご葬儀が同月二十八日、伊勢市岡本の祖霊社にてしめやかに執り行われた。当日は、神社界をはじめ学校関係者などおよそ百二十名が参列。本学発展のために力を尽くされた故人の遺徳を偲んだ。

田中先生はご専門である日本古代史のほか政治や教育等に関する提言を数多く行い、建国記



念の日の制定に尽力されたことでも知られる。そして、皇室問題につき常に大所高所からご判断なさり、「詔書必謹」の精神で大義・大道を通された。

東京帝国大学文学部国史学科を卒業され、昭和三十七年に本学の教授にご就任。昭和五十五年から同六十二年まで本学学長を務められ、平成六年に本学を退職された後は名誉教授として

が最もふさわしい事を歴史学の立場より意見陳述、「建国記念の日」の制定に貢献された事は、日本の教育界・言論界に多大な影響を与えられたものとして特筆されます。

先生はご退職後の平成十三年脳梗塞で倒られ半身不随の御身となされましたが、不屈の精神力で再起を果たされ今日迄、学問研究や学事顧問としてのつとめ、大学教育の適切な指導にも預かりつつ、日々を過ごされましたその強靱の尊厳に、唯唯感銘感涙致すのみであります。又私が、平成二十年理事長に赴任しました折、名張学舎撤退につき、「君は誠心誠意をこめて是に当たりなさい」との貴重な力強い教えを頂戴いたしました事は、誠に有難い事

昭和17年	大阪府立浪速高等学校卒業
昭和20年	東京帝国大学文学部国史学科卒業
昭和25年	府立大阪社会事業短期大学講師
昭和26年	府立大阪社会事業短期大学助教授
昭和29年	府立大阪社会事業短期大学教授
昭和35年	文学博士
昭和37年	皇學館大学教授
昭和37年	皇學館大学附属図書館長
昭和48年	皇學館大学文学部長
昭和55年	皇學館大学学長 (昭和63年)
平成4年	皇學館大学大学院教授
平成6年	皇學館大学退職、 皇學館大学名誉教授
平成10年	勲三等瑞宝章

【主要著書】『田中卓元著作集』全12冊(国書刊行会)、『続・田中卓元著作集』全6冊(国書刊行会)、『田中卓元評論集』全4冊(青々企画他多数)

## 弔辞 (一部割愛)

皇學館大学名誉教授・元学長・学事顧問田中卓元先生の御霊前に、謹んで申し上げます。

先生は、大正十二年十二月二十二日大阪市にてご生誕。昭和二十年九月東京帝国大学文学部国史学科を卒業。この間、昭和十九年学徒出陣海軍予備学生を経て海軍経理学校附となり、終戦を迎えられました。同十二年以降、大阪府内各所の教育機関を経て、昭和三十七年四月皇學館大学再興と同時に教授としてご着任。平成六年三月退職されました。そして、在職期間は、教授三十二年にも及ばれました。その間、本学の教学体制を飛躍的に進展させる事に寄与、

教育研究諸施設の整備拡充にご尽瘁されると共に、建学の精神を高く掲げ、旧皇學館の歴史と伝統の継承に意を注がれました。又これと併行して岸信介総長付、財団法人皇學館後援会常務理事、学校法人皇學館大学理事として学園全体の運営に参画されました。再興以来今日までの発展と充実そして終始その研究・教育・行政・運営の中心的存在として卓抜した見識と手腕を発揮されました。はまごに偉大なご功業であります。

昭和三十八年二月教育界の荒廃を憂い、日本教師会を結成しその会長に就任。以後十五年間に亘り日本の教育の正常化のため挺身された事。昭和四十年十一月建国記念日審議会に参考人として招かれ二月十一日

皇學館大学は申す迄もなく「敬神崇祖・尊皇愛国」を柱と致しており、その教育を歴史・文学に、経済・社会の中に活用する者であります。多く輩出せしめる事が必要であります。すなわち、皇學館大学は、真の日本人教育の聖域たるべきを保持していかなければなりません。先生の偉大なお教えを身に体し、非才微力ながら今後を歩んで参る覚悟でおります。

今日迄の限りなきご鴻恩を万謝し、大き御魂の安らかならん事を念じつつ、お別れの言葉とさせていただきます。本当に有難うございました。

平成三十年十一月二十八日  
学校法人皇學館理事長 佐古 一 冽

## 秋空の下、山室山参拝・参拝見学を実施



本居宣長の命日である11月5日(旧暦9月29日)にあわせ、毎年この時期に行われている山室山参拝及び参拝見学が11月8日に実施され、学部・専攻科の学生1549名と教職員がそれぞれの目的地に赴いた。神宮皇學館時代からの伝統行事である山室山参拝では宣長の奥墓を参拝の後、墓前にて入選歌の献詠が行われ、先人への畏敬の念を深めた一日となった。

### ◆入選歌(抜粋)

林崎の文庫の碑に大人仰ぎ  
わが学館の千代を祈りぬ(清水潔学長)

奥つ城の山の桜木そびえ立ち  
大人の心の大和萌え出づ(押田みずき・国文3)

天照らす神の御稜威を蒙りて  
道を照らせる鈴屋大人(工藤超・国文博前2)

### 各学年の参拝・見学先

学年	学 部	参拝・見学先
1年	文学部	●山室山(参拝・献詠・講話) ●本居宣長記念館 ●斎宮歴史博物館 ●さいくう平安の杜
	教育学部	●瀧原宮 ●丹生神社・神宮寺(丹生大師)
2年	文学部	●二見興玉神社●金剛證寺 ●内宮(一般参拝)
	現代日本社会学部	●伊雑宮●相差海女文化資料館 ●神明神社
3年	文学部	●伊雑宮●海の博物館●金剛證寺
4年	文学部	●結城神社●三重県総合博物館
専攻科	文学部	●山室山(参拝・献詠・講話) ●松浦武二郎記念館 ●斎宮歴史博物館

# 平成三十年度 内定状況(中間報告) 四六七名が内定

内定率六三・二%  
(平成三十年十一月一日現在)

今年度も広報活動三月解禁、採用選考六月開始で就活がスタートした。十一月一日現在の内定率は六三・二%(教員・保育専願の未定者を除くと七六・三%)となり、四六七名(卒業予定者七六四名)が内定を得ている。なお、十月九日、経団連は現在の大学二年生から現行の就活ルール(採用選考に関する指針)を廃止することを正式に決定した。この廃止によって採用活動の時期が見通せなくなり学業への影響も懸念されることから、政府主導の新たなルール作りが待たれる。

今年度は昨年以上の売り手市場となり、十一月一日現在の企業の内定者数は三二三名と、昨年度卒業生の企業就職者数(三〇九名)を上回った。一方で、自身の適性や応募企業への理解不足は入社後の競争倍率は、桑名市一八・二倍、四日市市五・六倍、鈴鹿市九・〇倍、津市の競争倍率は、桑名市の二・八倍、鈴鹿市の二・七倍、四日市市の二・七倍、津市の二・七倍と、昨年度卒業生の企業就職者数(三〇九名)を上回った。一方で、自身の適性や応募企業への理解不足は入社後の競争倍率は、桑名市一八・二倍、四日市市五・六倍、鈴鹿市九・〇倍、津市の競争倍率は、桑名市の二・八倍、鈴鹿市の二・七倍、四日市市の二・七倍、津市の二・七倍と、昨年度卒業生の企業就職者数(三〇九名)を上回った。

## 一般企業 昨年度卒業生の企業就職者数を上回る

今年度は昨年以上の売り手市場となり、十一月一日現在の企業の内定者数は三二三名と、昨年度卒業生の企業就職者数(三〇九名)を上回った。一方で、自身の適性や応募企業への理解不足は入社後の競争倍率は、桑名市一八・二倍、四日市市五・六倍、鈴鹿市九・〇倍、津市の競争倍率は、桑名市の二・八倍、鈴鹿市の二・七倍、四日市市の二・七倍、津市の二・七倍と、昨年度卒業生の企業就職者数(三〇九名)を上回った。

## 公務員 公務員人気は根強く

三重県内の主な自治体の競争倍率は、桑名市一八・二倍、四日市市五・六倍、鈴鹿市九・〇倍、津市の競争倍率は、桑名市の二・八倍、鈴鹿市の二・七倍、四日市市の二・七倍、津市の二・七倍と、昨年度卒業生の企業就職者数(三〇九名)を上回った。

## 教職関係 九十九名が教員に合格 七年連続三重県トップ

平成三十年度教員採用試験の結果が発表され、本学からは三重県で七十四名、他県では二十五名(現役のみ、昨年度比十名増)が合格を果した。教員採用については全国的に少子化の影響を受け、三重県小学校では採用者数が昨年に比べ六十名減の一九二名の中、本学は既卒を含め六十三名が合格し、三重県全体の合格者数に占める本学の割合は三二・八%と七年連続三重県トップを維持している。また、三重県中学校では国語(競争率一一・五倍)が全体の合格者数十名のうち四名、社会(競争率二〇・四倍)は八名中三名を本学が占める好結果となった。

《教職支援担当》では個人指導を徹底し、三名の教職アドバイザーが中心と

平成30年度実施 三重県公立学校教員採用選考試験結果

校種・教科等	現役	既卒	皇大計
小 学 校	21	42	63
国 語	0	4	4
社 会	1	2	3
保健体育	0	1	1
英 語	0	1	1
高 校	0	1	1
特別支援学校	1	0	1
合 計	23	51	74

三重県以外(現役のみ)

中学校	小学校	合計
神奈川県(国語)	1	1
神奈川県(社会)	1	1
愛知県(国語)	1	1
名古屋市(国語)	1	1
岐阜県(国語)	1	1
東京都	1	1
富山県	1	1
神奈川県	6	6
川崎市	1	1
静岡県	1	1
愛知県	2	2
名古屋市	1	1
大阪府	2	2
和歌山県	2	2
神戸市	2	2
山口県	1	1
合 計		25

《教職支援担当》では個人指導を徹底し、三名の教職アドバイザーが中心と

# Regional Collaboration 地域連携

## 月例文化講座が開講四〇〇回

本学が再興された昭和三十七年より、一般市民向けに開催してきた月例文化講座が十月六日の「言語生活からみた伊勢神宮の魅力」(国文学科・齋藤平教授)をもって開講四〇〇回を達成した。

歩みを遡ると、第一回の演題は「伊勢神宮創祀の問題」(国史学科・田中卓教授)、「憲法への関心」(教養科・松本米治教授)となっている。清水潔学長は「開講当時は国民所得倍増計画が推進され、物質的な豊かさを追い求める傾向が強まる一方で、全国の大



記念すべき400回目の講座には雨にもかかわらず100名ほどが来場し、熱心に耳を傾けた

学で学生・教職員の抗議集会や授業放棄が行われるなど、精神的思想的な混乱・混乱は収まるどころを知らない状況でした。それだけに、時代を超えた価値、精神文化の源泉、心を養い求められたのです。本学は倉田山に再び学問教育の場を開きました



挨拶に立つ清水学長

問・研究の成果を広く社会に開放し、啓蒙を図ることが肝要であるとの認識がありました。その試みの一つが月例文化講座だったのです。今こそ市民講座は各大学で開催されていますが、当時としては珍しいことでした」と思いを語る。

講座内容は年度ごとに統一テーマを設定しており、平成三十年度は「さまざまな資源からみた伊勢神宮の魅力」とのテーマのもと、五月から十二月にかけて八回の講座が行われた。次年度は「即位礼と大嘗祭の歴史と文学」(仮を予定している。地域貢献の一環として本学では今後ともさらに工夫を重ね、充実した講座を開けるよう、取り組んでいく。

## 南アフリカの教授らが生物学ゼミの出前講座を視察

十月三十一日、教育学部生物学ゼミによる小学校理科の出前講座が二見浦小学校(伊勢市)で行われ、南アフリカからノースウェスト大学のデ・ソーサ教授ら五名が視察に訪れた。これは日本学術振興会の二国間交流事業の一環によるもので、一行は日本での環境教育、及び昆虫食の文化等を学ぶ目的で来日。現代の南アフリカでは子どもたちの昆虫離れが進んでおり、子どもたちに昆虫への興味を促す教授法を学ぶために本学を訪れた。昆虫を教材にした出前講座を継続的に行う事例は、全国的にも珍しいという。



興味深げに視察する教授たち。一行は30日に伊勢に到着し、研究室を見学し、ゼミ生らと交流した

出前講座は三年生を対象に行われた。授業の内容や実験の材料は学生たちが準備し、昆虫の特徴・種類といった基礎的な内容からアワヨトウの幼虫に寄生する寄生蜂を題材に「寄生」の概念などを伝えた。児童は四名ずつの班に分かれ、各班に付いたアシスタントの学生と一緒に昆虫を観察・解剖しながら進めた。子どもたちが楽しそうに取り組む様子に視察一行からは「授業の内容は学生が考えたのか」「アシスタントの学生

の役割は？」など、教授法や伝え方の工夫について矢継ぎ早に質問が出た。デ・ソーサ教授は「見る・触れるといった実際的な手法を用いながら、まず個人、次にグループで協力して考えるという学びの組み立てが非常に参考になった。各班のアシスタントの学生が子どもたちの興味や質問をうまく引き出して素晴らしかった」と語った。中松豊教授は「今回の視察に向け学生たちは英語で説明するために時間をかけて準備をしてきた。生きた国際交流の機会として、学生にとっても有意義だった」と語った。

## 新学長に河野訓教授

清水潔現学長の任期満了(平成31年3月)に伴い、10月26日に開かれた理事会において、副学長の河野訓教授が次期学長に選ばれた。任期は平成31年4月1日から4年間。



現在、河野教授は満60歳。昭和57年東京大学文学部印度哲学印度文学専修課程卒業。昭和61年東京大学人文科学研究科印度哲学印度文学専攻修士課程修了。昭和63年同博士課程退学。平成12年に博士(文学)を取得(東京大学)。

文化庁文化部長官特別顧問、國學院大学非常勤講師などを経て、平成12年に本学文学部助教授に就任。平成19年に教授に就任後、神道学科主任や情報処理センター長を歴任。平成27年に副学長に就き現在に至る。

## 日展「書」部門で上小倉准教授が入選

111年の歴史を有し、日本で最も権威のある公募展「日展」の書部門において本学文学部国文学科の上小倉一志准教授(上小倉積山)が入選を果たした。

今年度(改組新第5回日展)の書の応募総数は8543点。うち、入選できるのは1割強という狭き門だ。作品名は「黄山谷詩」。東海地区での展示は来年1月30日(水)~2月17日(日)、名古屋・栄の県美術館ギャラリーで開かれる。



## 障害者雇用優良事業所として表彰

学校法人皇學館はこのほど平成30年度「障害者雇用優良事業所等の厚生労働大臣表彰」を受賞した。これは、障害者を積極的に多数雇用している事業所に贈られるもので、今年度表彰されたのは全国で21件。三重県からは本学が唯一選ばれた。



## 約120名が初穂曳に参加



10月15日、平成最後の「神嘗奉祝祭」となる第47回初穂曳行事に学生約120名が参加した。本学の学生は平成19年度より初穂曳行事に参加させていただいており、3台ある奉曳車のうち、一番車を地元の子どもたちと奉曳している。当日は皇學館奉曳会の学生10名が木遣りの音頭で曳き子をリード。学生たちは一体となり、外宮までの約1キロを心を込めて奉曳した。参加した学生は「雨の中の奉曳だったが、木遣りやマイクの方が盛り上げてくれとても楽しかった。綱を上下に動かしながら進むのは結構しんどかった」「奉曳車を曳かせてもらえるのは皇大生ならではの経験で、めったにないこと。奉曳車は予想以上に重く翌日筋肉痛になったが、全力で初穂曳を行った証と思い、達成感を感じた」などと感想を述べた。

## 無料のオンライン講座 gacco に高校生SBP講座を開設

地方創生に若い力を生かしてほしいと、無料で学べるオンライン大学講座「gacco」に現代日本社会学部の新田均教授、岸川政之教授が高校生SBP講座を開設した。SBPとはソーシャル・ビジネス・プロジェクトの略で、高校生がビジネスの手法を学びながら地域の課題解決に取り組むもの。岸川教授は一般社団法人「未来の大人応援プロジェクト」の代表理事を務めており、八月に同法人が文科省との共催で本学を主会場に開催した「第三回全国高校生SBP交流フェア」には全国から二十八団体、高校生約二二〇名が集結するなど、その活動は確実に広がりをを見せている。講座開設の狙いについて、岸川教授は「SBPは、高校生たちに勉強でも既存のクラブ活動でもない、第三のステージを提供する一つの手段」と語り、SBPに取り組む高校生が増え、本学がSBPの聖地となればと期待を寄せた。同講座の受講開始日は十二月四日(火)。学習期間は四週間で、これまで実際にSBPに取り組んで成功した高校生たちの事例や具体的なノウハウ等を紹介する八分程度の動画二十一本を四週に分けて配信する。開講中なら受講開始日以降でも登録可。パソコンやスマートフォン、タブレットを使って受講できるため場所や時間を選ばず、また、掲示板では同じ講義を受講する仲間と熱いディスカッションを繰り広げることができ、まさに大学のゼミさながらの深い学びを得ることができると期待している。



多くの高校生にチャレンジしてほしいと呼びかける岸川教授

gaccoとは、大学教授等による本格的な講義が誰でも無料で受けられるウェブサービス。ビジネスに直結する講座から知的好奇心を満たすものまで多様なジャンルの講義が随時開講されている。現在、会員数は四十六万人超。

# Global グローバル

## 「多文化主義のカナダで他者への寛容性を学ぶ」

### ヨーク大学・夏期語学研修体験レポート

かねてよりニーズの高かったカナダでの語学研修が今年度新設され、八月四日から二十七日までの三週間、十一名がヨーク大学(York University)で学んだ。現地での様子をコミュニケーション学科二年の市川真理子さんに伺った。



### 授業

#### Pronunciation clinic

「L」と「R」など日本人にとって発音の区別が難しい単語をゲームに取り入れ、楽しみながら学べる授業です。ネイティブの発音を聞いては発声する練習を繰り返して、正しい発音で話せるようになりました。

#### "History of Canada" Academic Workshop

カナダの歴史について学んだり、首都や硬貨などカナダにまつわるクイズを解いたりして、多くを知る機会になりました。

#### "Canadian-U.S. Relations" Academic Workshop

カナダとアメリカの特色につ

いてまとめ、発表しました。盛んなスポーツや国の動物などを取り上げ、比較したことで、わかりやすく伝えられたように思います。リスニング力も鍛えられました。

#### "Canada's Relations with the World" Academic Workshop

ほかの学生に国のスポーツや習慣などテーマを決めて質問をし、パワーポイントにまとめて発表しました。インタビューを通して積極的に会話するようになり、また、人前で英語を話すことに少し抵抗を感じなくなりました。

### ホームステイ

ホームステイ先は若いご夫婦のお宅でした。ホストファミリー

### 今後になかしたかったこと

何事にも積極的に取り組むようになりなりました。また、自分と異なる文化を否定するのではなく、

### メッセージ

く、受け入れる寛容性を多民族国家であるカナダから教えてもらった気がします。「自分らしさ」を大切にしつつ、他者を尊重し理解する姿勢を実生活でも実践していきたいと思っています。

### メッセー

帰国後は発音を意識するようになり、リスニング力も以前より向上したと感じています。海外では伝えようという気持ちさえあれば、相手にも伝わると思えます。きつと素敵な思い出と経験が積めると思っているので、勇気を持って参加してみてください。



学びの証である修了証を手に記念撮影

### 研修プログラム

Week 1	月	火	水	木	金
9:00-11:15		ウェルカムレセプション、キャンパスツアー、オリエンテーション	授業	授業	授業
11:30-12:30		プレースメントテスト	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック
12:30-13:30	Civic Day (provincial holiday) - No Class				
13:30-16:15	授業	授業	"Canadian-U.S. Relations" Academic Workshop Toronto Blue Jays Game (7:00pm) - Community Leaders	"History of Canada" Academic Workshop	授業
Week 2	月	火	水	木	金
9:00-11:15	授業	授業	授業	授業	授業
11:30-12:30	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック
12:30-13:30	昼食				
13:30-16:15	授業	授業	"Canada's Relations with the World" Academic Workshop	授業	授業
Week 3	月	火	水	木	金
9:00-11:15	授業	授業	授業	授業	授業
11:30-12:30	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック	ファイナルテスト
12:30-13:30	昼食				
13:30-16:15	授業	授業	授業	授業	フェアウェルパーティー

授業：75.00H ワークショップ：8.25H テスト：2.00H 【合計】85.25H

## 優秀卒論に基づき2名が研究発表 国文学会研究発表会(10/27)

国文学会が国文学国語学の研究の促進及び会員相互の親睦を図ることを目的に活動しており、各研究部会・文学散歩・研究発表会・講演会・会報発行を実施している。恒例の研究発表会では前年度優秀な成績を取った卒業論文に基づき、陳琰さんが「豊子愷『源氏物語』底本の検討」、靳倩倩さんが「森鷗外『雁』における雁」を発表した。論の組み立て方や展開の仕方などがよく分かるので、次年度は4年生や3年生はもちろん、1・2年生からの参加も期待したい。



## 質疑相次ぎ、活発に意見交換 皇學館大学史学会研究発表会(11/15)

11月15日、平成30年度皇學館大学史学会研究発表会が本学で開催され、会長の松浦光修教授による挨拶に続き、学内の若手研究者4名(①梅田優歩氏「近世初期山田奉行の広域関与一長野内蔵允を中心として」、②豆多真空氏「鹿持雅澄の研究一『万葉集古義』の注釈を通して」、③安部玄将氏「度会府創設についての一考察」、④万代陽華氏「外交官有吉明の対中国政策一華北工作を中心に」)による研究報告がなされた。いずれも濃い内容で、教員や学部生から質疑が相次ぎ活発な意見交換が行われた。本学における研究水準の向上を図るとともに、教育面でも十分な成果と上げたものと考えられる。



## 人間とロボットの付き合い方を提示 コミュニケーション学会講演会(11/15)

講演会にはコミュニケーション学科生、教員、一般の方など約110名が参集した。講師は人工知能研究の第一人者で名古屋工業大学准教授の中村剛士先生。「人工知能・ロボットと人のコミュニケーション」と題した講演で先生は人間とロボットの付き合い方を提示し、開発中の聴導犬ロボットの話、聴覚障害者とのコミュニケーション支援等について具体例を交えわかりやすく説明された。そして、ニーズの高い人工知能技術者・データサイエンティストには「コミュニケーションスキル」と「心理学的な知見」が必要だと明言され、学生のIoT社会への関心をより一層高めた講演会であった。



**ヨーク大学 (York University)**  
【設立】1960年 【生徒数】60000名  
ヨーク大学はカナダの経済の中心地・トロントに位置する総合大学。カナダでは3番目に学生数が多く、150カ国以上から留学生を受け入れている。キャンパスはカナダ最大の広さを誇り、図書館やカフェテリアのほか、アートギャラリーや劇場、ショッピングモールなど「町」ともいえる充実の設備を備えている。

の英語学習アドバイザーに相談してみてください。いつでも親身に話を聞き、適切な助言をしてくれます。海外では伝えようという気持ちさえあれば、相手にも伝わると思えます。きつと素敵な思い出と経験が積めると思っているので、勇気を持って参加してみてください。

## 「情報の理解と解釈、その作用について」 第9回現代日本学会記念講演会(11/15)

都市社会学を専門とする講師の荻野勝行先生は現在、大阪大谷大学人間社会学部の教授で、カナダのサイモン・フレイザー大学で教鞭をとられた経験もお持ちである。講演では多種多様な情報ソースが溢れる中で、その情報を正しく理解することの重要性を熱く語り、同じ情報であっても受け手の性別や年齢、文化的背景、そして生活経験により解釈が異なることを学生との対話形式にてわかりやすく説明された。何気ない映像の中に織り込まれた製作者の意図や教育的効果を見抜くことの難しさと受け手側の情報解釈の多様性と曖昧さについても指摘され、情報発信における課題を再認識する有益な機会となった。



審査委員であるコミュニケーション学科のクリストファー・メイヨー准教授は「スピッチのメッセージを上手く表現するため、身振りや発音な

- 入賞者**
- 第一位 前田 さくらさん** (皇學館高校一年)
- 第二位 甲斐 千紗都さん** (青山高校二年)
- 第三位 伊藤 来夏さん** (セントジョージ女子学園高校一年)

## 前田さくらさんが優勝 第十九回高校生英語スピーチコンテスト



優勝した前田さん(前列中央)。入賞者には表彰状と盾、副賞の図書カード、詩集『東海道Road』が贈呈された

特別企画

# 倉田山移転百年

平成三十年の今年、皇學館は倉田山に移築してちょうど百年の節目を迎えます。この移転を主導したのが、「駅伝」の名付け親にして本学第六代館長である武田千代三郎でした。本企画では当時の写真とともに、倉田山移転にかけた武田館長の思いと足跡を振り返ります。



武田千代三郎館長

大正七年(一九一八)一月、倉田山校舎の一部(教室)が新築竣工、移転式を挙行し倉田山での授業が開始された。引き続き三月に本館(現記念館)、その後祭式教室等も順次建設され、大正八年(一九一九)九月、精華寮の移転(現、皇學館高校・中学校敷地)をもって全部竣工。十月十八日には、神宮祭主久邇宮多嘉王の台臨を仰ぎ、本館改築落成式が挙行された。

加えて、武田館長によれば、「早晩改築をしなければならぬと思つて居たところ、賀陽宮様が御就学遊ばすといふ事になったので、急に改築を断行しようと言う話に進んだ」(『勢陽学報』八号)という。賀陽宮邦憲王の子・恒憲王は、学習院中等科を大正四年に退学して陸軍中央幼年学校に転入している。时期的に考えると、あるいは神宮皇學館でのご就学という風聞もしくは期待もあったのかもしれない。

倉田山移転の計画は、大正四年二月に武田千代三郎館長から発表され、翌五年一月に内務省より認可。同年から敷地購入および地均し工事に着手し、足かけ五年に及ぶ。大正二年九月に神宮皇學館最初の専任館長(従前は神宮少宮司などが兼任)として着任した武田千代三郎は、一部移転した後の大正七年四月に大阪高等商業学校長として転出したが、移転の計画・実施を実質的に主導したのが武田館長その人であった。

移転先としては高燥清雅の地が求められ、「宇治は土地狭隘であり、山田は卑俗に失する」(『五十年史』)として、先に御幸道路が開通(明治四十三年)して交通の便もよく、神宮徴古館・農業館(明治四十四年から神宮所管)も建つ倉田山が候補地とされた。

移転の理由は、築二十年を経た館町校舎(明治二十九年竣工。現、神宮司片宇治工作所敷地)の老朽化と、低湿のため「梅雨時は勿論の事一寸劇(はげ)い雨になるといつでも畳を上げる位の懸念」(『五十年史』)があったという地理的環境にある。

武田館長は四県の知事を歴任し、山梨での大水害への対応や青森での十和田湖開発が知られるように、土木行政にも精通していた。そうしたこともあってか、地所を定めるため、倉田山を中心に、道もない谷や山も自ら実地踏査している。そして「或はコンパスを採つて

「運動の為に学業を忘るゝが如きは最も戒めなければならぬことである。然れども今の学生が運動する暇がないとの口実の下に、却て快楽(たのしみ)を貪(あきら)んとするの傾向あるは歎(なげ)ずべし」(『理論実験 競技運動』明治三十七年刊)と、学業と運動の両立を信念とした武田館長の思い、さらには皇學館が倉田山で歩んできたその道のりに触れる機会となれば何よりである。

製図し、或は耒耜(うゑこ)を以て地を相(あ)した(『館友』二二〇号)という。丘陵地のため飲料水確保に不安もあったというが、試掘の結果は良好で、倉田山への移転が決定されることとなった。

トラックやフィールドをもつ当時画期的な運動場(昭和十二年、日本陸上競技連盟より第三種公認)の計画も武田館長ならではのものだが、「これ(倉田山移転計画)こそ武田館長の名を一日も我等をして忘れしめない所」(創立六十年記念誌)と評されるごとく、武田館長の倉田山移転に果たした功績は極めて大きいといえる。

「運動の為に学業を忘るゝが如きは最も戒めなければならぬことである。然れども今の学生が運動する暇がないとの口実の下に、却て快楽(たのしみ)を貪(あきら)んとするの傾向あるは歎(なげ)ずべし」(『理論実験 競技運動』明治三十七年刊)と、学業と運動の両立を信念とした武田館長の思い、さらには皇學館が倉田山で歩んできたその道のりに触れる機会となれば何よりである。



体育振興家であった武田館長自慢の近代的運動場



1周300mのトラックは当時としては画期的だった



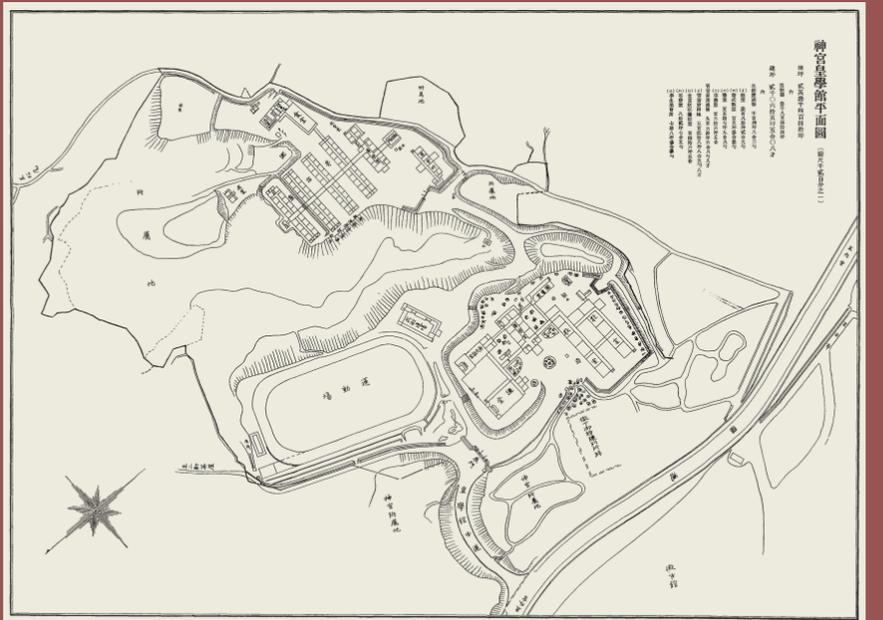
正門



玄関



館舎



神宮皇學館平面図(大正8年度) 主要建物の広さは事務所166坪余、教室380坪余、祭式教室約105坪余、閲覧室約48坪余、剣道場約153坪余等

「運動の為に学業を忘るゝが如きは最も戒めなければならぬことである。然れども今の学生が運動する暇がないとの口実の下に、却て快楽(たのしみ)を貪(あきら)んとするの傾向あるは歎(なげ)ずべし」(『理論実験 競技運動』明治三十七年刊)と、学業と運動の両立を信念とした武田館長の思い、さらには皇學館が倉田山で歩んできたその道のりに触れる機会となれば何よりである。

## 寮史に新たな1ページ 精華寮・貞明寮を統合

教育寮として位置づけられる本学の学生寮。平成31年4月から精華寮(男子)・貞明寮(女子)を同一敷地内に男女別棟で運営することが決まり、9月27日、貞明寮移転工事の地鎮祭が建設予定地である精華寮南寮中庭において執り行われた。佐古一洵理事長や清水潔学長をはじめとする学校関係者、工事関係者が見守る中、松本丘教授が斎主、学生4名が祭員を務め式を斎行。工事の無事故と安全を祈願した。



## 寮歌を後世に歌い継ぐ 第4回伊勢寮歌祭に70名が参加

10月6日、明治維新150年・平成30年記念「第4回伊勢寮歌祭」が本学倉陵会館にて行われ、全国から70名が参加。参加者は母校の法被を纏い青春を回想しながら、声高らかに寮歌を斉唱した。戦後の新制皇學館大学の心の拠り所でもあった精華寮寮歌「若草萌ゆる」を斉唱の際は、現役学生も混ざり大熱唱。寮歌を後世に歌い継ごうとする卒業生の想いを感じる寮歌祭となった。



## 「皇學館生としての誇りを」 博物館で卒業展示「移りゆく皇學館」開催

「移りゆく皇學館～倉田山移転百年記念～」と題し開催された博物館学芸員課程卒業展示。テーマ展示「学生生活をみる」を解説してくれた妹尾康平さん(国史4年)は「そうそうたる教授陣やL(Literature)の形をした学部章など初めて知ったことは多い」と語り、「自分の大学について知識を深めておくことはとても大事。諸先輩方と同じく皇學館生としての誇りを持ち、その名に恥じないよう努めたい」と話した。



### 9月28日に体育大会を開催



雨天のために延期されていた体育大会が見事な秋晴れの下、盛大に開催された。クラブ対抗リレーやむかて競争、先生方も登場しての学年対抗で競うシークレットレースなど、どの競技も盛り上がり、午後からは学年対抗の応援合戦が繰り広げられた。校友会総務副委員長の西岡海翔さんは「勝てば喜び合い、負ければ励まし合う姿から、各クラスの絆を見ることができた。この絆を大切に、今後行われるクラスマッチなどの行事がより良いものになってほしい」と期待を込めて語った。大会結果は以下の通り。

総合結果	優勝	3年5組
	準優勝	2年3組
	第3位	1年5組

## 秋晴れの下、2年生が九州方面へ修学旅行

九州方面への修学旅行が10月3日から3泊4日の日程で行われた。今年は台風の影響で天候が危ぶまれたが、若干の予定変更はあったものの雨に降られることなく全ての行程を無事に終えることができた。生徒たちにとっては印象深く思い出に残る修学旅行になったに違いない。以下に生徒の感想を紹介する。



### 戦争について学び、命の大切さを知る

2年7組 佐田舞葉

修学旅行はとても充実していて良い思い出になりました。台風が来ていて天気予報が傘マークだったにもかかわらず、3日間晴れの天気で最高でした。軍艦島見学と太宰府天満宮参拝はできなくて残念でしたが、それを忘れるくらい楽しむことができました。1日目は鹿児島島の知覧を訪ねました。九州の中でもずいぶん南にあるので電車でも行くのに時間がかかりました。この修学旅行では知覧の方々の話を聞いたり、平和公園や長崎原爆資料館へ行ったりと、戦争のことについてたくさん勉強できたと思います。そのことから戦争は絶対に起こってはならないと思ったし、命の大切さを改めて感じることができました。

### 九州の魅力に触れ、好きな地に

2年10組 吉田さくら



この4日間は多くを学び、九州を肌で感じ、そして友達とのかけがえのない思い出を作ることができた貴重な時間でした。これまで漠然としか知らなかった九州ですが、実際に行くと江戸末期に活躍した人々や指宿の砂風呂、長崎の夜景など、名所や特産物、深い歴史について知ることができました。多くの魅力に接することで九州がよく分かり、ますます好きになりました。この楽しい経験を同級生と共にできたことをこれからも忘れないようにしたいです。

## 11月9・10日に2年生32名が尾鷲・熊野で自然・産業体験宿泊研修

### 甘くみずみずしかったみかん 2年A組 大矢梨央

何といっても印象に残るのはみかん狩りです。教えてもらった見分け方で選んで口にすると、普段食べているみかんよりも甘くてみずみずしいことに驚きました。もっとたくさん穫って帰りたいです。この2日間は本当に盛りだくさんで、一つひとつとても良い経験ができました。

### 印象に残った花の窟神社 2年B組 濱口愛規

今回最も印象に残ったのは、花の窟神社です。祭られている伊弉冉尊が死の国から出られないようフタをした石がご神体でとても大きかったことや、花の窟神社が『日本書紀』に記されていることにも驚きました。大昔から今も変わらず季節の花を供え、音楽を奏で、舞踊つてイザナミをお祭りしていることに感動しました。



### 勝敗をも左右するチームワーク [9月18日] 体育大会

快晴に恵まれて優勝! 嬉しかったです。今年是不思議なほど天気の巡り合わせが悪く、雨天延期が3回も続き、これが最後の予備日という日にやっとできた体育大会。最高の結果が出て良かったと思いました。クラス一脚の時、ゴール直前で紐がほどけるアクシデントが起きて3Aに点差を一気に縮められてしまったけれど、クラスみんながチームワークを最大限に発揮して、競技に燃えることができました。それを一番感じたのが、綱引きの時でした。3Aの圧倒的勝利だと言われていたのに、3B綱引きチームが粘り強さを見せ、あと一步のところまでいきました。結果はともかく、応援を含めてクラスが一つになった場面でした。勝敗を左右するチームワーク。これからもみんなで大切にしていきたいです。



3年B組 濱地浩喜

### フィリピンの文化に触れる [9月20日] 国際理解・国際交流プログラム

9月20日に三重県国際交流財団による国際理解・国際交流プログラムを実施。今年度はフィリピン人の講師とフィリピンに在任経験のある日本人講師をお招きし、3年生を対象に授業を行っていただいた。授業ではまずフィリピンの国について講話をしていただき、その国民性や文化など予備知識を学んだ後、グループに分かれワークショップを実施。「私の大切なもの」とのトピックについてディスカッションが繰り広げられ、価値観の違いの理解や共有を図った。最後に設けたQ&Aの時間では直接講師の先生に英語で質問するなど、英語によるコミュニケーションの実践にもなった。



中高合同

## 「家庭に感謝する日」の行事

10月30日に「家庭にする日」の行事が行われ、教職員、生徒全員で教育勅語の謹書を行った。謹書は後日明治神宮に奉納される。また、この日までに生徒が書いた作文の一部を抜粋して紹介する。



### いつまでも一番温かい存在 高校1年7組 森 叶

寮生活のため家族とは月に一度程度しか会うことができない。しかし、毎日のように連絡をくれ、成績や部活のことより、一番に健康を心配してくれる。本当に嬉しいし、頑張ろうとスイッチを入れ直すことができる。時には意見がぶつかることもあ

るが、私を心配してのことだし、私の意見もしっかり聞いてくれる。その言葉一つひとつが私にとって大きな支えとなっていることを伝えたい。家族は私にとっていつまでも一番温かい存在だ。本当にありがとう。

### ごめんなさい。そして、ありがとう 中学3年A組 植松 央 楽

「職業調べ」の時、父にインタビューした。「なぜ、今の仕事を選んだの?」との問いに、父の答えは「この仕事なら、家族を苦労なく養っていける」だった。その時から「家族」という存在を意識し始めた。

いつでも相談にのってくれる。しかし、家族にとって私はどうだろう? まだ父のような意識の高さで将来の職業を考えることもできない私だが、人生で一番長く時間を過ごすのは家庭だと思うし、感謝の言葉が大切だとも分かっている。だから、今日は素直な言葉にしてみたい。お父さん、お母さん、お兄さん、「いろいろと、ごめんなさい」「いつも、ありがとうございます」。

私にとって家族とは、とても頼れる存在でありながら、なぜか近づきにくい。父は我が家の大黒柱。母は家事を全て一人でこなし、私を万全の態勢でサポートしてくれる。兄は

## 校友会の3名に優良生徒賞

10月20日、津市の三重県総合文化センターにおいて第54回三重県私学大会が開催され、皇學館高等学校3年の黒田結規さん(前校友会総務委員長)と瀬田京子さん(前校友会総務副委員長)、皇學館中学校3年の谷水彩乃さん(校友会総務委員長)の3名が優良生徒として表彰を受けた。黒田さんは「皇學館高校を代表していただいた賞なので身の引き締まる思い」と話し、瀬田さんは「校友会の活動は行事の準備など苦しいときもありましたが、他の校友会の仲間たちと協力して乗り越えることができました。今回の受賞はその努力が報われたもの」、谷水さんは「校友会役員みんなの意見を一つにまとめるのに苦労したが、表彰を受けて嬉しかった」と喜びを語った。



左から谷水さん、黒田さん、瀬田さん

中学校

# イベントカレンダー

各講座の詳細につきましては本学ホームページにてご確認ください。その他、お問い合わせは皇學館大学地域連携推進室(0596-22-8635)へお願い致します。

🕒時 📍所(●本学 ●他) 📄料金 🎯対象 📅予約 📞問合先

## 12月

### 22日 研究開発推進センター神道研究所公開学術シンポジウム 鈴木重胤翁のひとと事蹟

パネリスト ● 加茂正典(文学部教授・研究開発推進センター共同研究員) 浦野聡子(研究開発推進センター助教) 佐野真人(研究開発推進センター助教) 司会 ● 大平和典  
🕒13:30~17:00 📍佐川記念神道博物館講義室  
📄無料 🎯一般(定員50名) 📄必要  
📞研究開発推進センター神道研究所 TEL 0596-22-6469 FAX 0596-22-6463 sken@kogakkan-u.ac.jp

### 近鉄文化サロン阿倍野 共催講座

会場 ● 近鉄文化サロン阿倍野  
詳細は近鉄文化サロン阿倍野(06-6625-1771)へお問い合わせください。 **有料・要予約**

#### 12/15(土) 15:30~

1日・短期講習会『日本書紀』を読む 「景行天皇(2)」 講師 ● 大島信生(文学部教授)

#### 12/22(土) 15:30~

神道と仏教—神仏習合と神仏分離— 「苗木藩における神仏習合と神仏分離」 講師 ● 河野 訓(文学部教授)

#### 1/12(土) 15:30~

古事記を読み解く —雄略天皇後半~推古天皇の段 「欽明天皇」 講師 ● 白山芳太郎(文学部教授)

#### 1/26(土) 15:30~

神道と仏教—神仏習合と神仏分離— 「神仏分離の全国への展開」 講師 ● 河野 訓(文学部教授)

#### 2/2(土) 15:30~

1日・短期講習会 『伊勢参宮名所図会』を読む 「瀬田の唐橋から矢橋」 講師 ● 岡野友彦(文学部教授)

#### 2/9(土) 15:30~

古事記を読み解く —雄略天皇後半~推古天皇の段 「敏達天皇」 講師 ● 白山芳太郎(文学部教授)

#### 2/16(土) 15:30~

1日・短期講習会 『日本書紀』を読む 「景行天皇(3)・成務天皇」 講師 ● 大島信生(文学部教授)

#### 2/23(土) 15:30~

1日・短期講習会 三国とその後の皇帝即位 講師 ● 堀内淳一(文学部准教授)



### 平成29年度卒業生・萼の会より 65インチの電子看板寄贈

平成29年度卒業生ならびに萼の会からデジタルサイネージ(電子看板)が寄贈され、記念館傍に設置された。65インチの液晶ディスプレイは時間が経つと画面が切り替わり、学生が出演した大会の結果や、定期演奏会等のイベント案内が表示される。画面は天候を問わず見やすく、学生の活躍を周知できるツールとして好評だ。卒業生・萼の会の皆様、本当にありがとうございました。

# 平成最後の学園祭が開幕

たくさんのご来場、ありがとうございました

## 第57回 倉陵祭

10月27日(土)・28日(日)

テーマ ● 中興

先輩方の気持ちを 絶やしたくない

倉陵祭実行委員長 松村明洋(神道学科2年)



人員が集まらず、開催が危ぶまれた今年の倉陵祭。このままでは56回の伝統が絶えてしまうとの思いから、実行委員長に名乗りを上げました。本来はリーダーシップをとるのが苦手な手探り状態ではありましたが、心掛けたのは笑顔になれる雰囲気づくりと無理をさせないこと。そのため、時には冗談を言ったり声掛けをこまめにし、メンバー一人ひとりが楽しく活動できるよう努めました。そして、無事に第57回倉陵祭を開催でき、感謝の気持ちでいっぱいです。倉陵祭は学生同士がつながる場であり、また、日頃学生が取り組んでいる成果を発揮する場でもあります。その意義を忘れることなく、かつ先輩方が脈々と受け継いできた倉陵祭の勢いを衰えさせず、次年度からも継続していってくれることを切に願っています。



● 祭典 倉陵祭初日の午前9時より執り行われた祭典。祭の成功と安全を祈願した。



● こども広場 倉陵会館・こども広場ではレクリエーション部の劇「オズの魔法使い」が2時間の上演にもかかわらず大盛況。副部長の北村桃子さん(教3)は「子どもたちが喜んでくれ、半年にわたり準備してきた甲斐があった」と笑顔を見せた。

● 井上康生氏の記念講演

「一流の人は常に最悪の状況を想定し、準備を怠らない」と語った井上氏。西口祥彦さん(文1)は「質疑応答の際、どの質問にも真摯に答えていた姿が印象的だった」と感想を話した。



● 樽神輿 倉陵祭伝統の行事「樽神輿」が、今年も学内巡行し、祭を盛り上げた。



## 第56回 皇高祭

9月20日(土)・21日(日)

テーマ ● ともに ~仲間と進め君らしく~

皇高祭で 学校が一つになれた

校友会総務副委員長 志村 茜(2年9組)



今年の皇高祭には校友会役員として参加しました。この皇高祭を通して、たくさんの人に力を貸していただき、そのありがたみを感じることができました。なぜなら、皇高祭の準備や当日の運営がこんなにも大変なことだと思っていなかったからです。校友会の先輩方は大変な思いをしながらより多くの人を楽しめるようにたくさんの工夫をしてくださっていたことを実感しました。今年は私がその体験をすることができ、自分の成長の糧にすることができました。無事に皇高祭を終えることができたのは、そばで支えてくださった先生方、共に頑張った校友会役員の仲間、協力してくれた皇學館高校生全員のおかげだと思っています。皇高祭で皇學館高校全体が一つになれた感じがとても嬉しかったです。この皇高祭での経験を生かし、これからは私がこの学校にたくさん貢献していけるよう、精一杯頑張ります。



● 祭典 厳粛な雰囲気の中、神様に学業を修められたことへの感謝の気持ちと、その成果をご奉告。そして文化祭の成功を願い、お祈りを捧げた。



● 講演「あきらめない心」 ちゃんへん.さん 世界的ジャグリングパフォーマンスとして活躍されているちゃんへん.さんによる講演、パフォーマンスを觀賞。



● クラス展示 力作揃いのクラス展示。2年2組は1万枚以上の写真を使い、修学旅行で訪れる鹿児島桜島のモザイクアートを作り上げた。



● レクリエーション 校友会主催のジャンケン列車を全校生徒で行った。

## 第39回 皇中祭

10月20日(土)・21日(日)

テーマ ● 美しい虹を架けよう ~可能性は無限大~

「挑戦、協力、努力」の 大切さを実感

総務委員長 谷水彩乃(3年B組)



私は総務委員長として、7月中旬から校友会本部と準備を始めました。はっきりと指示を出すのが本当に難しく大変でした。しかし、支えてくださった先生方、本部の仲間、クラスの仲間のおかげで頑張ることができました。当日はそれぞれ可能性を信じて今まで積み上げてきたものを最大限に発揮できたと思います。「挑戦、協力、努力」の大切さを改めて実感しました。私は総務委員長として皇中祭を作り上げることができ、本当にうれしかったです。今年の皇中祭は私にとって最高の皇中祭となりました。



● 記念講演 栗コーダーカルテットによる記念講演では、NHKピタゴラスイッチのテーマ曲など誰もが一度は耳にしたことのある曲が演奏され、盛り上がった。



● 合唱コンクール 各クラスとも、息のあった合唱を披露。「RAIN」を歌った3年B組が優勝に輝いた。

僕たち3年生にとって最後の皇中祭。全力を尽くそうと気合いが入りました。展示はギリギリまで悩み、意見の違いでケンカもあったけれど、前よりもっと仲良くなり、お互いを知ることができたと思います。当日は説明などのおもてなしにも心を込めたので、楽しんでもらえたと思っています。クラスのみんなの顔はやりきった感があふれていました。結果は「展示が1位! 合唱は2位!」。本当に嬉しかったです。友だちみんなとアドバイスしてくださった先生に感謝したいです。最高の皇中祭でした。 3年A組 正岡優仁



● クラス展示 優勝したのは3年A組で、テーマは「感じる音楽世界」。

アクティブ・スチューデント  
**Active Student**

高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

## 豪雨被災の倉敷市真備町で22名が子ども保育ボランティア

本学の学生22名が8月6日から10日にかけて「平成30年7月豪雨」で被災した岡山県倉敷市真備町を訪問し、子ども保育ボランティアを行った。これは、西日本豪雨災害に際し、教育学部生であることを生かせるボランティアを探していた秋元雅仁准教授が倉敷市教育委員会主催の「幼児児童保育ボランティア」を知り、参加を募ったもの。現地では、がれきの撤去など家屋の片付け等を行っている人々の子どもたちを対象に、絵本の読み聞かせや昼食、昼寝の準備・補助・片付け、外遊び、工作等の保育を行った。

水没した被災地の現状を目の当たりにした学生たちは初めこそ戸惑っていたが、園児や小学生たちに対しては不安を感じさせず、懸命に向き合う姿が見られた。参加した学生からは「本当に楽しそうに外で遊ぶ子どもを見て、私たちが当たり前と思っている日常がこの場所では貴重なのだと感じた」(高林美佑さん・4年)、「仲良くなるにつれ被害状況を語り出し、心に大きな傷とストレスを抱えているのを実感した」(高木麻衣さん・3年)、「子どもたちと触れ合ったことで、自分の夢である『教師』をさらに意識することができた」(竹中一真さ

ん・2年)、「参加する前はどこか他人事のように思っていたが、実際に自分の目で見て現地の人の話を聞くと、自分にもっとできることがないだろうか考えるようになった」(中村美仁さん・2年)などの感想が聞かれ、ボランティア活動を通して多くの気づき・学びがあったようだ。

なお、激励に訪れてくださった本学卒業生の牧博嗣岡山県神社庁長、宿舎をご提供いただいた總社宮様をはじめ、本活動にあたりお世話になったすべての方、館友に、紙面をお借りして御礼申し上げます。

## 山城美菜<sup>(教育4)</sup>さんら日本チームがキンボールスポーツアジアカップで優勝!

10月14日、キンボールスポーツアジアカップが中国・吉林省で開催され、教育学部4年の山城美菜さんがメンバー入りしている日本女子代表チームが見事優勝!連覇を果たした。



「どの国よりも厳しく苦しい練習を乗り越えてきたので、勝つ自信はありました」と山城さん。サーブ・攻守の切替えなどすべてにおいてスピードが速いことや技の多さ、団結力等が日本チームの持ち味だという。山城さんは「声掛けなどいつも以上にメンバー同士が助け合い、ピンチを抜け出すことができました。またチームワークもさることながら、切磋琢磨しながら各々が個人の力を高めたからこそ、今回の勝ちにつながったと思います」と大会を振り返り、「次の目標はワールドカップの日本代表メンバーに選ばれること。そのためにもトレーニングを重ね、今よりももっと強くなりたい」と意欲を語った。

## 柔道・瀬古翔洋<sup>(教育4)</sup>さんが全国大会ベスト8(第5位)

瀬古翔洋さん(教育4年)が9月29日・30日に日本武道館で開催された平成30年度全日本学生柔道体重別選手権大会に出場。男子60kg級でベスト8(第5位)入賞を果たした。「落ち着いて臨めた」と話す瀬古さんは3回戦で樋口裕大選手(同大会優勝者)とあたり準決勝進出はかなわなかったものの、「体力的には負けていないと感じることもあった」と手応えを感じた様子。一方で、「勝ち上がっていくにつれ集中力が切れてくる。最後まで専心するメンタルの強さが必要」と分析し、課題とした。なお、同大会の成績により11月4日・5日に千葉県で行われた講道館杯への出場を決め、ベスト16と善戦した瀬古さん。「高

校のときは弱かった自分が佐藤先生の指導の下、このような成績を取られとても感謝している。後輩たちはベスト4、優勝をめざして頑張り、皇學館の名を全国に広めて」と願いを託した。



## “伊勢うどんマジック”で審査員を魅了 岡村真衣<sup>(国文2)</sup>さんがミス伊勢志摩グランプリに

マジシャンとして国内外のステージに出演している岡村真衣さん(国文2年)が手品を通じて伊勢志摩を盛り上げたいと「ミス伊勢志摩」に



応募。愛らしい笑顔とともに得意の「伊勢うどんマジック」を披露し、見事、ミス伊勢志摩グランプリの座を射止めた。岡村さんは「身に余る光栄。自己PRで伊勢うどんと同じ太さのロープを使い、長さや本数を変えるマジックをしたところ非常に興味を持っていただき、『来年は伊勢うどん大使にならないか?』と声を掛けてくださった方もいました」と笑顔で話す。10月5日の表彰式から1年間は撮影会や観光イベントへの参加が予定されており、岡村さんは「生涯にわたり残る『ミス伊勢志摩』の称号と皇學館生の名に恥ずかしくない振る舞いをモットーに、地元の物を使ったマジックで伊勢志摩の魅力を伝えられたら」と抱負を語った。

## 皇學館高校吹奏楽部が東海吹奏楽コンクールで金賞受賞

8月26日に名古屋国際会議場で開催された第73回東海吹奏楽コンクール・高校Aの部において皇學館高校吹奏楽部が金賞に輝いた。130名という大所帯をまとめる部長の安田朋未さん(3年)は「結果を聞いた瞬間、喜びとともにこれまでお世話になった方々への感謝の気持ちがあふれてきました。全国大会には出場できませ

んでしたが本番中は楽しく演奏でき、部員一人ひとりが全力を出せたと思うので悔いはありません」ときっぱり。「私たちの部は仲の良さが取り柄。先輩も後輩も一つの音楽を作り上げる仲間であり、悩んだり困ったときはいつでも相談し合います。そうした部風が音色にも反映されていると思います」と話した。「前川幸生先生



の『自身を正しいと思う前に疑え』との言葉を胸に、さらなる高みをめざしたい」と語る安田さん。今後の飛躍に期待したい。